

# 第1回 透析連携のためのMMWIN活用講座

を開催いたします。

MMWINの事業目的の1つには、透析記録など、災害時に備えた医療情報のバックアップがござい  
ますが、この情報を日常業務ではどのように活用し、セキュリティ不安や業務効率化に結び付け  
るかということについて、実際の運用方法を交えて透析医療関係者の皆さままで共有できる大  
変貴重な機会です。当日は下記の予定でセミナーを開催いたします。皆様ご参加くださいますよう、  
よろしくお願いいたします。

- ・セミナー1 「MMWINの概要について」  
講師：中山 雅晴 先生  
(東北大学大学院医学系研究科 医学情報学分野 教授)
- ・セミナー2 「透析診療におけるMMWINの活用  
～透析情報共有と遠隔バックアップ～」  
講師：木村 朋由 先生  
(JCHO 仙台病院 透析・血液浄化センター長)
- ・セミナー3 「MMWIN連携による地域透析医療支援の可能性」  
講師：宮崎 真理子 先生  
(東北大学大学院医学系研究科 腎・高血圧・内分泌学分野 特命教授)

日時：令和元年7月11日(木) 18時30分～

場所：宮城県医師会館5階 会議室1

(住所：仙台市青葉区大手町1番5号)

【参加お申込み】

担当営業または下記E-mailへご連絡下さい。

E-mail：office@mmwin.or.jp

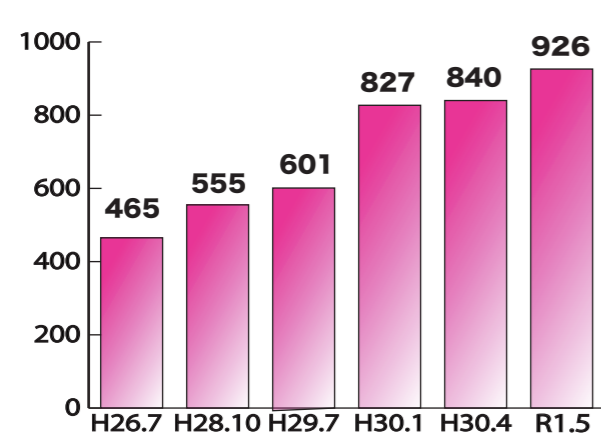
## 稼働状況

データで見るMMWINの稼働状況です。

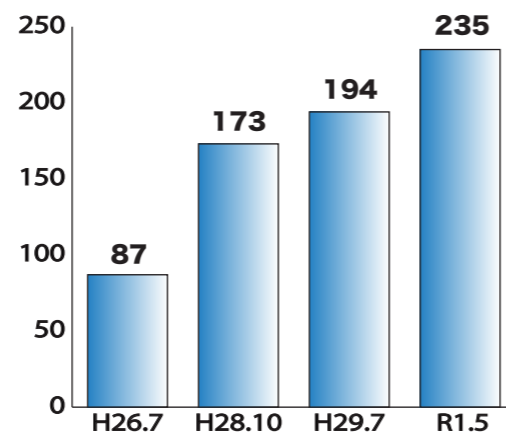
### データ推移

※令和元年5月31日時点

#### 参加施設数推移



#### 診療所施設加入推移



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会  
〒980-8633 仙台市青葉区大手町1-5 宮城県医師会館6階 URL：http://mmwin.or.jp  
サポートセンター TEL：022-399-6880 サポートセンター E-mail：support@mmwin.or.jp  
事務局 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313 E-mail：office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。  
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。  
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2019 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が思いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



エムエムウィン  
**MMWIN** 通信  
みんなのみやぎネット NEWS

2019  
6.27  
vol. **57**

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

参加施設の声

仙台圏

## おろしまちクリニック内科・内視鏡内科

院長 野口 謙治 先生

おろしまちクリニック内科・内視鏡内科は、仙台医療センター・消化器内科で約13  
年間ご勤務された野口謙治先生が、平成29年に仙台市若林区卸町にご開業されまし  
た。地域の皆さまのかかりつけ医を目指し、風邪や高血圧・糖尿病などの治療、胃・  
大腸の苦しくない内視鏡検査、胃がん検診や大腸がん検診の2次検診等、内科・消化  
器内科を中心とした、消化器疾患全般の診療に対応しております。

今回は参加施設の声として、野口謙治先生よりお話を伺いました。



受付カウンターの様子

### ●現在の運用・活用状況

受付カウンターにMMWINスタンドを  
掲示し、患者IDカードの提示を促して  
おり、2019年6月現在で約60名の患  
者さんがID紐付けされております。ID  
カードの提示を受けた際には、受付スタ  
ッフがID紐付け操作をしておりますが、  
当院から地域の基幹病院に紹介する際は、  
積極的にMMWINへの加入をお勧めして  
おります。

### ●MMWINシステムで役に立ったこと

地域の基幹病院で腫瘍マーカーの検査を受けられた患者さんから、検査結果につい  
て聞かれたことがありました。MMWINシステムで連携している病院でしたので、診  
療情報参照システムで検査の結果を閲覧し、患者さんに説明が出来ましたので、喜ん  
で頂けました。

また、当院で診療中の現病以外の過去の状況も把握出来、  
診療の参考になるとともに、当院と地域の基幹病院が情報  
連携できていることに対する患者さんの安心感にも繋がっ  
ております。

### ●画像連携システムの活用状況とメリット

従来の診療情報参照システムに加え、本年の4月からは  
画像連携システムの運用も開始しました。近隣病院で定期  
検査を受けている患者さんの画像データを閲覧しましたが、  
これまで患者さんからのお話を聞くだけでは得られ  
なかった詳細な状況・情報を得ることが出来、大きなメリッ  
トを感じました。

また、当院で定期的に内視鏡検査をしている患者さんが  
病院に緊急搬送された場合などは、当院での実施した内視  
鏡検査の画像を救急の現場でも見て頂けるので、患者さん  
にとってもメリットがあるシステムだと思います。



院長 野口 謙治 先生

# 透析連携システム —活用状況について—

—昨年より、透析連携システムがスタートいたしました。  
透析連携システムをご活用いただいております「三浦クリニック」様と「宏人会中央クリニック」様に、現在のご活用状況等についてお話をお聞きいたしました。

## 三浦クリニック

院長 三浦 俊治 先生  
透析室 看護師長 日野 様

### ■現在の活用状況（三浦俊治 院長）

昨年、透析連携で繋がりが強い JCHO 仙台病院と MMWIN 事務局から MMWIN のシステムを活用した透析情報の共有を図って行きたい旨のお話をお聞きしました。その際、透析情報を共有するにあたり「紐付け処理」が重要であることを知り、透析患者さんの MMWIN への加入活動に積極的に取り組み、現在では透析患者さんのほぼ100%の方に MMWIN に加入をいただいております。現場からは透析情報を共有することが出来るようになり、活用頻度が増えていると聞いております。今般、さらに透析室の看護師（1名）、技師（2名）に職員用の IC カードを付与することにいたしました。今後とも MMWIN を活用しての透析連携をより深めていくとともに幅をひろげる事により利用価値を上げて行きたいと考えております。



### ■現場での活用状況（透析室 日野 看護師長）

当院は入院設備が無く、手術や短期入院が必要な患者さんは JCHO 仙台病院にお願いすることが多い状況です。転院された患者さんの状況は大変気になります。何度と無く JCHO 仙台病院の透析情報や診療内容を確認しております。検索した内容を参考にさせていただくこともございます。また、手術の状況や診療内容が確認できることで患者さんが当院に戻ってこられる時期の予測が可能になり、受入れの準備などをするのに役立てております。

### ■MMWIN への要望など

（三浦俊治 院長、日野 看護師長）  
MMWIN を活用しての透析連携が、JCHO 仙台病院との間のみでは無く、他の施設との間でも透析連携がすすむことを期待しております。



## 宏人会 中央クリニック

院長 金澤 雅之 先生

### ■施設紹介

宏人会中央クリニックでは、慢性腎不全患者さんに対する血液透析療法を中心に、そのほか保存期腎不全、高血圧症、糖尿病、ホルモン分泌異常症などに対する専門外来診療を行っています。当クリニックで血液透析療法を受けておられる患者さんは約270人で、これは宮城県内の血液透析患者さんの約4.6%にあたり、当クリニックは県内有数の透析施設として知られています。加えて、過去1年間の透析療法以外の外来患者さんは延べ6,250人で、そのうち高血圧症が3,151人、保存期腎不全が1,777人、糖尿病が289人です。



### ■MMWIN 活用の状況

昨年、IT 活用推進化のために宏人会全体のプロジェクトチームを発足させました。その活動の1つとして、これまで利用していなかった MMWIN の利活用を進める活動を開始しました。まず、今年1月の「MMWIN 透析連携会議」に初めて参加したことを皮切りに MMWIN スタッフの応援による加入活動を開始しました。その結果、新規で約100人の透析患者さんが入会し、紐づけ総数は214人を数えるまでに大きく飛躍しました。4月には当クリニックの全職員が MMWIN ポータルを利用できるように MMWIN 説明会を開催し、新規に50人以上の職員が IC カードを申し込みました。また、4月1日より透析経過記録を毎日アップロードし、透析連携用紙、紹介状のアップロードの運用準備にも着手しました。更に、入会済みの患者さんであることを示す識別シールをカルテに貼る作業も行っています。

### ■MMWIN への要望など

MMWIN を利用する機会を増やし基幹病院との打ち合わせを緊密にすることで、連携実績を1例でも多く重ねていきたいと思っています。そのためにも、MMWIN には連携施設での運用がこれまで以上に活発になるように活動していただくことを切に希望します。

MMWIN 事務局と致しましても、今後とも透析連携システム利活用を進めてまいります所存でございます。

各施設様におかれましてはさらなるご助力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

